



給食会だより

第152号

〔公財〕川崎市学校給食会



〒210-0004 川崎区宮本町6番地（明治安田生命ビル4F）

TEL 200-3298,3300 FAX 222-1442

第43回川崎市小学校学校給食教育研究協議会

平成31年1月16日（水）午後、会館とどろきにおいて、第43回川崎市小学校学校給食教育研究協議会を開催しました。この研究協議会は次のような主旨や経緯の中で行っているものです。

子どもの健康な心身を育てていくためには、「生きる力」の源の一つである食生活を見直し、よりよい食習慣が身につくような食育の推進を図っていくことが急務とされています。本市の食に関する指導については、文科省より出された「食に関する指導の手引」を参考にしながら、生きた教材である学校給食を有効に活用しつつ、栄養教諭・学校栄養職員による関連教科や特別活動等の授業への参加が進められています。

また、川崎市立小学校給食教育研究協議会は、学校給食の目的を達成するために、「食に関する指導」における諸問題を協議し、今後の指導の改善充実に資することを目的としています。

川崎市立小学校特別活動研究会 中村邦彦会長の開会の言葉の後、主催者側より2名（川崎市立学校栄養研究会 室賀俊二会長、川崎市学校給食会 本間俊理事長）と来賓代表（川崎教育委員会事務局健康給食推進室 小島昌子学校給食担当課長）のあいさつで始まりました。

主催者と来賓のあいさつ後、川崎市立学校栄養研究会 栄養職員 金井奈緒美氏（所属 川崎市立住吉小学校）の発表がありました。

川崎市立学校栄養研究会では「学校給食を通して、望ましい食習慣と豊かな心の育成をめざして」を研究主題にして、研究に取り組んでいます。今回は「強い骨を作ろう」というテーマでの実践報告でした。

「社会環境の変化に伴う食生活の乱れは、児童の健康問題に深刻な影響を及ぼしている。健全な食習慣は、学童期において確立することが重要である」との立場から指導の改善を試みた。

各学校では「食に関する指導プラン」を基に食育推進組織の整備を行い、「食に関する指導の全体計画」「食に関する指導年間指導計画」を作成し実践している。体育科保健領域「育ちゆく体とわたし」の中で、成長に必要な栄養素としてカルシウムがあることを学んでいる。しかし、給食時間の児童の様子を見ると、カルシウムを多く含む野菜中心の献立や、大豆・大豆製品を主とした献立を、盛り付けを減らしたり、残したりする児童の姿が多くみられた。特に、和食の献立の残量が多いことが分かった。

そこで、「強い骨をつくろう」と題して、学級活動の授業をチームティーチングで実践することにした。

「導入」では、身長と骨量のグラフから、背が伸びる時には栄養が必要であることを考えさせた。

「展開」では、「食事アンケート」「食品カード」「献立カード」を資料として提示し、「強い骨をつくるための食生活」「給食には、カルシウムを多く含む献立を取り入れていること」「骨量は20代でピークを迎え、その後は徐々に減少すること」を学習させた。

「終末」では、強い骨をつくりよりよく成長していくために、どのように生活を改善するかを考えさせた。

また、事後活動では、1週間「コツコツ（骨骨）貯金」というワークシートを実践した。

総合教育センター高橋徹指導主事からは、「この後の講演にも出てくるUDL(Universal Design Learning)を実践した授業でした。普段は、骨のことをなかなか考えません。ここに授業として題材を設定した意義があり、課題意識の必然性があります。授業を通して「強い骨をつくるために、～しよう。」という意思決定がなされなければなりません。そして、望ましい意思決定は、具体的行動目標であること・少しの努力で達成できること・目当ては1つであること の、3つが大切です。事後活動等を取り入るなどして、これらのことも実践できていたと思います。資料は、多ければよい訳ではなく、厳選された資料を適切に提示することが大切です。」との講評がありました。



1月25日（金） 第3回公益財団法人川崎市学校給食会理事会 開催

議題：第8号議案 「公益財団法人川崎市学校給食会債権管理規程」
に基づく債権放棄について

報告：第3号報告 理事長並びに専務理事の業務執行報告について
が審議され、承認されました。

